

The Hino citizen activities group contact meeting news 9.

ひの市民活動団体連絡会ニュース9号

平成 20(2008)年 2月 15日
 発行：ひの市民活動団体連絡会
 代表・梁瀬 悦司
 編集：広報部会
 〒191-0012 東京都日野市日野 1369-27
 Tel / FAX. 0 4 2 - 5 8 1 - 6 1 4 4
 E-mail:hino-cagcm@tokyo.email.ne.jp
 ホームページ：準備中

今年も皆様のご協力で、ひの市民活動団体連絡会ニュース9号をお届けします。

第1回 ひの市民活動支援センターまつり 寒空でも日が差し、楽しい一日

2007年12月16日の日曜、ひの市民活動支援センターまつりが開催されました。



明るい陽だまりの中、駐車場スペースでは模擬店（エネカフェも）、フリー・マーケットコーナーを開きました。

朝組み立てた模擬店のテントの机には各団体のパンフレットが置かれ、またフランクフルト、大きな寸胴には熱々のとん汁や温かなコーヒーなども用意され、来場者のおなかを満たしてくれました。

フリー・マーケットコーナーでは、衣類、雑貨、おも



ちゃ、手づくり品、アクセサリーなどが並びました。近隣の方もおみえになり和やかな雰囲気の中、お買い物をしていきました。
(写真：フリーマーケット)

講座室の遊びコーナーには、牛乳パックを使った「リサイクルおもちゃ」とウルトラマンや怪獣を的にした「輪投げ」があり、子どもおとなも楽しんでいました。輪投げは大当たりをねらって何度もチャレンジする子どもや童心にかえて楽しむおとなの姿も見受け



られました。

作業スペースでは、ひの市民活動団体連絡会参加団体の交流のもちつきを行いました。

幼児からおとなまで一緒にもちをついたあと、美味しくいただきました。各団体の会員同士が顔を合わせることはなかなかありませんが、団体の枠を超えて交流し、お互いを知る良い機会となりました。



室内での餅つき

これからこの「まつり」が回を重ねるごとに知名度も上がり、出店団体や地域の方々の参



加が増え、益々盛り上がっていくことを望んでいます。

(取材：広報部)
(^_^)(^o^)(^-^-)(@_@)(-_-)(^_^)/~

第5回NPOフォーラム 「本当の協働とは何か」

主催：ひの市民活動団体連絡会・日野市企画部地域協働課
 場所：日野市生活保健センター集会室（定員50名参加費無料）
 日時：平成20年3月9日（日）午後1時30分から4時30分

本当の協働とは何かをワークショップで探り、行政と市民活動団体との協働を推進し、いかにいいまちを創るかに役立てる。おおぜいの参加をお待ちしております。

稲城市で市民活動支援組織三市交流会

市民活動を支援する「中間支援組織三市交流会」は、市民活動団体を横に結び、市民活動中間支援組織がかえる課題や問題点、解決策など情報交換する「場」として、半年に1回、定期的開催してきたもので今回が3回目です。



今回は、昨年、11月10日(土)の午後、稲城市の地域振興プラザで、日野市の「ひの市民活動団体連絡会」・多摩市の「多摩NPO協会」と稲城市の「NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ」で構成する、市民活動支援組織三市交流会が開催されました。

今回の内容は、3市協働企画事業として「PASMOを利用した沿線の市民協働空間の創出プロジェクト企画」

について、(株)NTTデータ経営研究所社会・環境コンサルティング本部マネージャー溝内辰夫氏より、PASMOを利用したポイントを、鉄道会社の社会貢献活動として市民活動団体に寄付する仕組みづくりについて説明があった。関西・宝塚市では、阪急電鉄が同じような事例があり、今後、こちらでも「ワークショップ」で具体的な検討を進めることとなった。

また、活動紹介として参加した団体の報告で、「NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ」は、稲城市内において社会貢献活動を行っている市民活動団体に資金を助成するために「市民活動支援基金」を設置や「金曜サロン」開催。「多摩NPO協会」は、「多摩テレビ放送枠を使用した公益的市民活動広報プラン」や多摩市職員への意識調査「アンケート」実施、市民活動団体向けの「ブログ作成講習会」について、「ひの市民活動団体連絡会」からは、「シニアのための携帯電話講習会」「パソコン講習会」開催や「連絡会ニュース」発行について報告しました。〔世話人会 吉野 吾郎〕

講演会「市民活動支援組織のあり方(多摩市を例として)」

ひの市民活動団体連絡会では、2月3日(日)午後1時30分から生活・保健センター講座室で標記の講演会を行いました。講師は多摩市の多摩NPO協会理事長の橋本正晴さん(青山学院大学、日本大学で非常勤講師、中央大学で客

員講師)。講演は市民活動支援組織がNPO法人を取得することの是非、メリット、デメリットを中心に話され、市民活動を如何に活性化、支援できるかなどを整理し、協働のあるべき姿のサジェスチョンをいただきました。市民活動や協働のための指針となりました。

加盟団体の意識調査結果 (*^_^*)(^_^)/~

昨年11月から当連絡会加盟団体に対して連絡会に加盟していることについての意識をアンケートで調査しました。調査は連絡会加盟の目的やそれにより感じているメリット・デメリットなどを問う全般的な意識調査と、市民団体と行政の連携活動に関する調査の2件でした。

以下では連絡会加盟に対する全般的意識について概要を紹介します。(加盟団体26団体に調査票を郵送し14団体から回答)

(1) 加盟の目的と目的達成度

加盟目的で最も重要視しているのは、「支援センターの施設設備の利用」で、次いで「他の団体との連携や情報・ノウハウの獲得」と「団体自らのPRの場としての活用」です。目的達成度もその順でした。

(2) 加盟による各団体のメリット

団体がメリットを感じている点は、回答したほとんどの団体が「支援センターの会議室や設備の貸出し」を第一に挙げ、次いで「市役所でのポスター展示」です。

(3) 各団体による連絡会への貢献について

各団体がどのような点で連絡会に貢献しているかについては、「会議への参加」「部会活動への参加」「自己資金獲得活動への参

加」が拮抗し、多くの団体がこの3点のいずれにも貢献していると考えています。

(4) 連絡会の自己資金獲得活動について

連絡会が行っている公園清掃請負や講座開催による自己資金獲得活動は、14団体中13団体が「自己資金を作ることは必要」と回答。

(5) 評価している連絡会活動

連絡会として行っている活動の中で最も評価できるものを選択してもらったところ11団体が「行政との協働の推進」を挙げ、2団体が「ホームページやニュースによるPR活動」を挙げました。

(6) 連絡会への期待

連絡会に今後期待することを自由に記載してもらった設問では、次のような意見が出されています。

連絡会の活性化には、事務局の充実、世話人会や部会の動きを会員に伝える工夫が必要。

事務局の管理機能、行政との連携、連絡会活動の充実のためセンター長の設置が必要。

行政との交流と協働の推進、行政による市民活動支援推進。

団体運営に役立つ情報の提供やセミナー開催。

NPO法人運営の相談・交流。

連絡会事務所は市民の足が遠くない場所に。

退職者向け人材確保のPR活動の継続。

未加盟団体への加盟促進活動と市民へのPR。

市民団体をジョイントさせるためのPR。

〔広報部会 湯口裕〕

参加団体活動紹介

NPO法人日野映像支援隊

2001年4月、日野大好きな市民が集まって設立した団体です。当初は8人位の任意団体でしたが、現在は会員40名ほどのNPO法人で市役所と協働で活動しています。

皆さまお気づきの方も居られると思いますが、近年テレビドラマの最後に流れる協力テロップに「東京都日野市」を見かける事が多くなったと思いませんか？実は沢山の方々の理解とご協力に支えられて進めてきた私達の活動の成果なのです。映画やテレビドラマのロケを誘致して支援し、日野市を全国にPRすることや日野市の映像文化の発展に寄与することを目的としています。豊かな自然、起伏の多い町並み、日野は本当に映像資源の宝庫なのです。さらに都心からのアクセスも良いことからロケ隊は続々と訪れています。人の流れが多いほど地域は活性化します。この活動はその一助になっていると自負しています。

会員になると時間の都合のつく方はロケに立ち会う

テレビドラマ「14歳の母」

ふれあいの橋がロケ地に



ことで、有名人と出会う機会も沢山あります。興味のある方は参加してみませんか・・・

これまで支援した主な作品

映画「日本沈没」「スケバン刑事」「県庁の星」「100万円と苦虫女」「椿山課長の七日間」etc

テレビドラマ「エンジン」「マチベン」「ファースト・キス」「ダンドリ」「拝啓、父上様」「14歳の母」「美貌のメス」「佐々木夫妻の仁義なき戦い」etc

セミナー 学習会 参加報告

志木市における市民協働

講師：埼玉県志木市企画部政策審議室長 村上孝浩さん

会場：かながわ県民センター301会議室

日時：平成19年10月18日（木）18：30～20：30

主催：かながわNPO研究会事務局 アリスセンター

志木市の市民協働には3つのステージがある

第1ステージ：1985年7月細田市長就任。（保守・4期16年）

公募選定市民らによる「21しき市民会議」設置でH7「第三次志木市総合振興計画」策定。

第2ステージ：2001年7月稲坂市長就任。（保守・1期4年）「市政運営基本条例」施行で市民参画などをめざし、応募者全員（1期：252名、2期：139名）参加の「市民委員会」

設置で報告・提言。（今までの事業927件を白紙に戻し市民のためかを見直し）「行政パートナー制度」導入。「地方自立計画」で職員数619人から301人、行政パートナー0人から523人を計画（20年間で）業務委託拡大をめざす。

第3ステージ：2005年7月長沼市長就任。（市民派・1期目（行政職員プロジェクトチームで事業を「財政非常事態宣言」

を受け検証）第2ステージの「市民委員会」を廃止、公募選定市民らから「市民協働運営会議」設置、「行政運営推進条例」施行（行政パートナー制度による市民協働）

「市民協働業務評価委員会」設置。（評価によって直営に

戻した例も）「行財政再生プラン推進実行計画」（2006年5月）で安定した市政運営をめざす。

現在の市民協働

パートナーシップ協定を結び業務委託の仕様書をNPOと協議作成、4年間は随意契約（4年後は競争がある）（「評価委員会」の評価はホームページに掲載）

臨時職員手当800円/時に対して700円/時+NPO経費10%は安くないかという批判はある。NPOに委託して、利用度が増え光熱費が減った施設もある。広報誌編集・発行業務は1年で直営に戻ったケースもある。今後、業務委託がどこまで拡大し、受けるNPOが育つかが課題。

<感想>（参加：梁瀬悦司）

村上さんは第1ステージは秘書広報室、第2ステージはまちづくり・環境推進部市民活動支援課、第3ステージは企画部政策審議室と異動され、市長の交代による事業見直しを目のあたりにされ、まさに「市民協働」の歴史を背負っている感じだった。市長交代によって、政策が変わるのも理解できるが、市民にとって獲得してきた協働が後退することは避けたい。そのための条例による担保なのだが。

金曜サロンのご案内 2月は29日に実施

今度の金曜サロンは、「遺言の書き方」です。講師はファイナンシャルプランナー・多摩の小松久男さん。場所は支援センター講座室。3月は「地域デビュー」です。

<事務局だより>

* 会員団体の状況

退会・「ラテンアメリカ開発支援ネット」は2007年12月退会。

入会

- ・2007年12月 「ソマリアを支援する会」(代表者 後藤 ハル)
- ・2008年1月 「NPO法人設立準備会 “たまりばあ”」(代表者 鈴木 陽一)

* カラープリントアウトのご利用も！

事務所のプリンターを使用してのカラープリントアウトの料金は

- A 3判 1枚あたり50円
- B 4判 1枚あたり50円
- A 4判 1枚あたり30円

となっております。

使用にあたっては、用紙はご持参下さい。

* 事務所の年末大掃除

2007年12月16日午前9時～ひの市民活動支援センターの大掃除が行われました。(下図)そのあと、初めての「ひの市民活動支援センターまつり」が実施され、大会議室も子どもたちの遊び場に開放されました。



(事務局・山本克治郎)

●▽■市民活動参加団体イベント情報□▲○

* (2008年2月～4月) 詳細は各団体にお問い合わせ下さい

NPO法人日野子育てパートナーの会

「作ろう！遊ぼう！ぼかぼかひろば」

【とき】 2008年3月5日(水) 10時半～12時

【ところ】 万願寺中央公園ステージ前

【対象】 乳幼児とその保護者

【お問い合わせ】 587-6276「みんなのはらっば」まで

スプリングフェスタ いろいろなステージあり

3/29(土) 30(日) 日野中央公園

あいあむがフリーマーケットに参加！(連絡：042-583-6238)

イベントでは **団体相互の交流をサポート**

地域協働課

地域協働課は、市民活動の支援を始めとする参画・協働の推進を担う部署として設置され、担当事業の中には消費者団体への支援・育成等もあり、毎年秋に行われる「健康フェア&くらしのフェスタ」では、「くらしのフェスタ」の事務局でもあります。

「くらしのフェスタ」は実行委員会方式により運営し、消費者団体の日常活動を発表する場を提供し、団体相互のコミュニケーション作りを図り、消費者への情報提供、PR活動を行うものとして開催されております。

昨年末に行われた「第1回ひの市民活動支援センターまつり」もそうですが、市民活動団体が主体となっていくイベントでは、市は市民活動団体の自主性を尊重しながら、会場設営の準備を手伝ったり、物品の貸出などの支援を行い、共にイベントを作っていければと考えています。

今までは同じ市民活動団体であっても活動分野が異なることもあり、ひの市民活動団体連絡会の各団体とくらしのフェスタに参加している団体同士では交流があまりなかったかもしれませんが、これからは各団体からの情報提供や、それぞれの団体同士がもっと交流できるよう地域協働課を活用していただき、団体同士の協働にもつなげていただければと考えております。

ひの まちの生ごみを考える会

「物理学者、ごみと闘う」

～これからどうする？日野市の生ごみ！

とき：2月23日(土)13:30～16:30 ところ：日野市生活・保健センター
 第1部：基本講演 広瀬立成・早稲田大学教授、町田市ごみゼロ市民会議
 第2部 日野市の生ごみとこれから
 問い合わせ：日野市ごみゼロ推進課 581-0444

「Be すけっとと共に楽しむ集い」

2月24日(日)午後1時～3時まで 場所：上田地区センター
 落語と手話ダンス・ティータイム 参加費：200円
 申し込みは2月20日(水)まで
 日野たすけあいワーカーズ Be すけっと 042-585-3939

参加団体の皆さん、イベント情報をお寄せ下さい！

編集後記 このニュースもようやく定期的に発行できるようになりました。広報部員もメンバーが定着し、それぞれ楽しく役割をこなしています。新しく支援センターの紹介パンフレットもでき、新たにホームページも準備中です。

日野市には、「団塊世代広場」という新しい場もできましたが、市民活動団体連絡会はひと味違っています。支援センターは多様な市民団体が自由に活動する場であるとともに新しく活動を始めた団体を育てる場でもあります。広報は、内外の情報を議論しながら紙媒体に投影しています。興味のある方、ぜひ広報部会を覗いて見ませんか。(中尾)